

ほむ・ほむ通信

No. 18
[夏号]

グループ ほむ・ほむ

渋川市生協

「たくさんの子どもたちと学習会」



Partnership

生協のユニセフ活動・16

渋川市生協は、草津温泉や嬬恋村、北軽井沢などを含む群馬県北西部一帯をエリアとする、総組合員数8,495人の購買生協です。山岳地帯のため広範囲での活動は難しく、3か所に支所を作り、地域にあった活動をしています。

1985年より運営委員会活動として、主として年末のユニセフ募金と、子どもお年玉募金の年2回の募金活動に取り組んでいます。支所によっては、フリーマーケットの売り上げの一部を自主的にユニセフ募金に充てています。運営委員会では、ユニセフ活動への理解促進の方策が熱心に話し合われています。

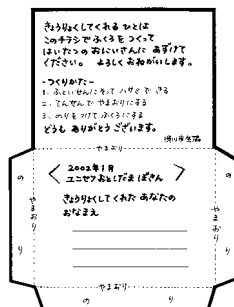
年末のユニセフ募金は、募金袋を班に配布し呼びかけています。また、子どもお年玉募金では、身近な話を例に、わかりやすい内容のチラシを作り組合員に1枚ずつ配ります。例えば、「ゲームボーイのソフト(3,800円)で、ひどくお腹をこわしたときに飲む経口補水塩(ORS)を約543回分送ることができます」といった具体的なことを知らせ、お母さんから子どもたちに、「世界には下痢すらで死ぬ子どもがたくさんいる」などと話してもらっています。

今年は、4月20日にユニセフ募金贈呈式と学習会を開催しました。アフガニスタンの子どもたちの様子や、生協を通じたユニセフ募金でどんな活動が行われているの

かなどを話してもらいました。ワークショップでは、「避難しなくては」と題した緊急避難体験をしました。「最後はどんな物を持って避難するか」では、貴重な体験をすることができました。経口補水療法の実演、会場に展示した地雷レプリカの説明、ビデオ2本などを織り交ぜた学習会には、たくさんの地域の人たちと子どもたちが参加し、有意義な活動となりました。

安心して生活のできる平和な社会作りを願い、これからも世界の子どものために募金活動に取り組んでいきたいと思います。

＜松本＞



手作り募金袋



●この記事に関するお問い合わせは...

渋川市生協 運営委員会 担当/生方千里さん

TEL 0279-24-3315/FAX 0279-24-3332

特 集

アフガン
報告会4.12
ユニセフハウス

AFGHANISTAN



「子どもたちのために」使命を持って活動するユニセフ

2002年4月12日(金)、ユニセフハウスでユニセフ駐日事務所の勝間 靖さんによるアフガニスタン報告会を開きました。日本ユニセフ協会と呼びかけたアフガン緊急募金に対し、全国の生協の皆様より昨年度5,700万円を超す募金のご協力をいただきました。こうした生協の皆様をはじめとする多くの支援者の方々に現地の情報をお伝えるため、昨年12月までアフガニスタンのユニセフ現地事務所に勤務しておられた勝間さんをお招きしました。当日は約60名の参加者が集まり、勝間さんのお話に引き込まれ、終始和やかな雰囲気で開催されました。

報告会では、ぼむぼむ編集ボランティアが、受付から誘導、記録などを担当しました。報告会終了後には、昼食をとりながら、ぼむぼむ編集ボランティアが勝間さんに取材をし、様々なお話を伺いました。今回の特集では、当日裏方となり、終了後勝間さんにインタビューをしたボランティアが、見たまま、感じたままを報告しています。



勝間さんのお話を聞いて

アフガニスタンではタリバン支配の下で、女性は仕事に就くこともできず、また教育を受けることもできません。私たちは本来教育を受ける権利を持っています。日本人にとっては義務教育は当然の制度であり、教育を受けることで子どもたちは人格を形成していきます。その権利を奪われた子どもたちの、「学校に行きたい」という気持ちは計り知れません。

アフガニスタンではもともと学校の先生の大半は女性でした。ところが女性が職業に就けなくなったので、学校には先生もいなくなってしまいました。学校から追放された女の先生たちは、秘密の学校(ホームスクール)を個人でこっそり開き、女の子たちに勉強を教えていました。アフガニスタン暫定政権になって、今は女の子たちも学校に戻りました。そして先生たちも、隠れて教えるのではなく、本当に学校に戻ることができたのです。

ユニセフでは「バックトゥースクール」を合言葉に、170万人以上の子どもたちが学校に戻るよう、教材の支援をはじめ教育環境を整えることに努めました。堂々と学校に通えるようになった子どもたちの笑顔を見ると、私も嬉しくてなりません。男の子、女の子のクラスは別々ですが、教科書は同じだそうです。公立学校では政府から先生たちに給料が支払われるのですが、なかなか支払えないのが現状だそうです。でも女性の先生たちにとっては、働く場が与えられたことで以前よりずっと生き生きできているのではないのでしょうか。

アフガニスタンの人たちは、とても自立心のある人々です。現在はユニセフの支援のもと、復興へと向かっています。つらいことや苦しいことをたくさん経験した子どもたちが教育を受ける権利を取り戻し、今まさにスタート地点に立っています。アフガニスタンの子どもたちは、夢や希望をいっぱい持っていることでしょう。

ユニセフでは子どもたちの精神面のサポートとして、絵を描かせたり、サッカーをさせたりしています。子どもた



勝間 靖(かつま やすし)さん

ユニセフ駐日事務所 プログラムコーディネーター
海外コンサルティング企業協会研究員として、バングラデシュ、フィリピン、タイ、ロシア、パラグアイ、ウルグアイで開発調査・研究を担当。ウィスコンシン大学マディソン校で開発学博士号を取得。1998年にユニセフに入り、メキシコの現地事務所でも子どもの保護を担当。2000～2001年12月まで、アフガニスタンの現地事務所でもモニタリング・評価官として、アフガニスタンの子どもたちのための調査、政府との交渉や調整などを担当。2002年1月～ユニセフ駐日事務所。

ちには遊びがとても大切なのです。人は生まれた国の違い、環境の違いで、考え方や生き方も様々です。しかし、ユニセフは中立の立場で平和のため、子どもの幸せのために、いろいろな場所でいろいろな活動をしているのです。

勝間さんのお話を聞いて、まわりの国に翻弄されながら今に至っているアフガニスタンのことを、私たちは決して忘れてはいけなくと強く思いました。そして日本ができることとして、アフガニスタンの人たちとの交流や日本に迎えての研修の制度が成功していくよう願ってやみません。今回、世界で活躍なさっている勝間さんと実際にお話しすることができ、私にとってのユニセフがより一層身近な存在になりました。

＜福本＞



ブルカを着ました

勝間さんが持参されたブルカを着せてもらいました。重い頭と息苦しさ、視界を遮る目の前の鬱陶しい小さな編み目、それが民族衣装であっても、そこから見た光景はアフガニスタンの女性が置かれた立場を物語っているようでした。反面、体を覆う青い布は透けるほど薄い織物で、細く美しいプリーツが、ゆったりと優雅にさえ見えました。タリバンが去った後、ブルカの下から顔だけを覗かせた女性の気持ちがわかったような体験でした。

＜浜崎＞





勝間さん(中央)を
囲むほむほむボラ
ンティアスタッフ

ユニセフは中立です

実際にお話を聞くということの、確かな手応えを感じたひとときでした。TVで拝見していた勝間さんから直接アフガニスタンの様子を伺える！私は、メディアで報道されていること以外にも、流れてこない情報や知らされていない事実がたくさんあるのではないかと、悲慘なことがたくさん数多くあったのではないかとその思いで臨みました。しかし、そんな予想は少しはずれました。

おだやかに、軽く足を組んで座った姿勢で時間的に順を追って話して下さったアフガン報告。伺い終わった後、石を一つひとつ積み上げていくような、地道な根気のいる作業ではありながら、確実に積み上がり、成果の出ている「ユニセフの仕事」に、希望を失わないまっすぐな理念を感じて、清々しい思いに包まれました。

アフガニスタンの誇り高い男性たち(人前では決して涙を見せない)、時に自分の身の危険を感じながらも教育への情熱を持ち続けた女性教師たち、タリバン支配もケシの栽培制限という数少ない良い点もあった等々、勝間さんのお話から、そこに生きているアフガニスタンの人たちの顔が浮かんできました。私は政治の絡みを無理してわかって、アメリカの空爆は仕方なかったのか、タリバンは、北部同盟は…と聞きたいと思っていたのですが、「ユニセフは中立です」その一言に快い衝撃を受けました。子どもたちに予防注射を受けさせたい、学校に行かせたい。その目的のために時にしなやかに、しかししたたかにお仕事を進めてこられたに違いありません。

その国の文化や風習を尊重するとのお話も印象的でした。どんな国、どんな状況であろうとも、未来そのものである子どもたちを一番に考える、その国にあわせた自立を助ける援助をする、本当にまっすぐな目標です。心から「ユニセフ」を応援したい気持ちでいっぱいになりました。勝間さん、ありがとうございました。 <山本>

データ調査により支援を確実に届ける

勝間さんの話で印象に残っているのは、「データ調査を行い、一番必要なところに確実に支援を届ける」ということでした。勝間さんのバックグラウンドは社会科学。2000年5月にアフガニスタンに赴任したのも、栄養状態や就業率など、子どもの状況を調査するためだったそうです。同時テロの影響で延期になっていた国連子ども特別総会が、今年開催されます。その総会では、1990年の子どもサミットにおいて採択された、5歳未満の死亡率の引き下げなどの目標が、10年間でどのくらい達成されたかが検証されます。アフガニスタンでの調査は、そのために取り組まれた世界的な調査の一環でもありました。

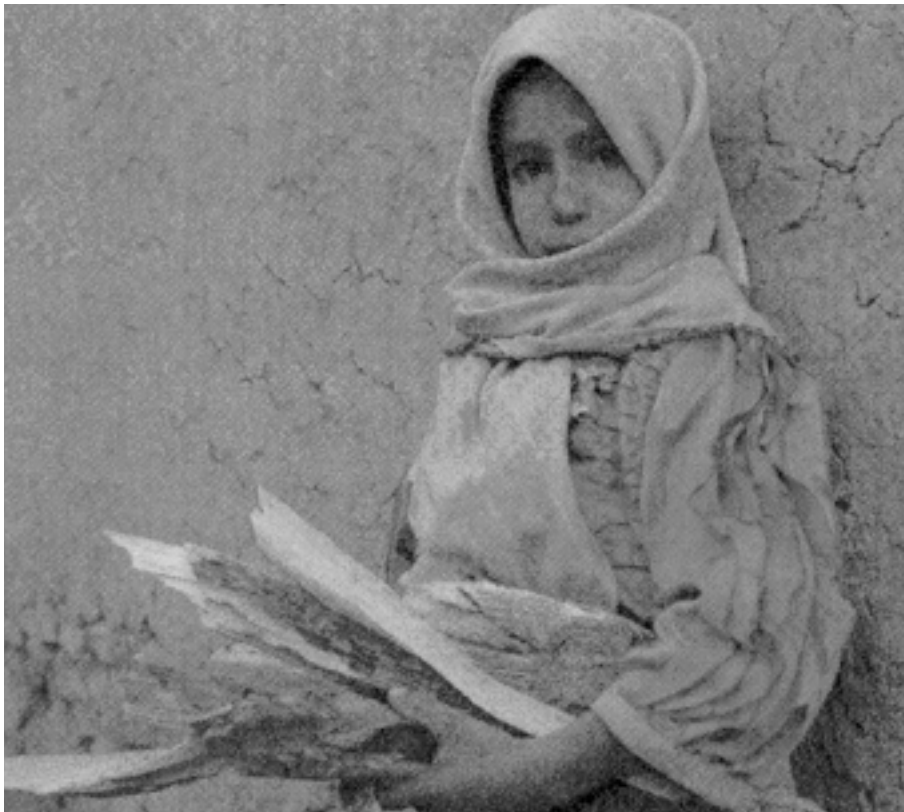
アフガニスタンでは、他の国での調査とはまったく異なっていくつものハードルを越えながら、データの収集が行われたそうです。タリバンの宗教指導者とサンプリングの手法を議論する席につくまでの苦労から始まって、女性にどう接してデータを集めるかなど、禁止事項を様々な抜け道を模索しながら突破。「なぜ、そんな大変なデータ調査をしないといけないのか」とよく聞かれるそうです。栄養不良にも急性と慢性があると勝間さん。栄養プロジェクトの補助食は、医療的措置を要する慢性栄養不良の子どものために用意されています。多くの栄養素を含む高価なもので、各地域のユニセフ予算が限られている中、すべての子どもにあげることはできません。綿密な調査をして、最も状況がひどいところ、必要に迫られているところを見極め、届けなければなりません。

調査データは北部を中心にかなり集まり、国全体の様子が見えてきました。アフガニスタンで全国的な調査がなされるのは、20年ぶりだったとか。国全体では慢性的な栄養不良の状態の子どもが52%以上、カンダハールの難民キャンプでは67%以上だったそうです。

やがて同時多発テロが起きます。テロ後も、勇敢な現地スタッフの協力で、医療品やテントなど物資を届ける活動が継続されました。それを必要としている険しい山に阻まれた北部などへは、国外からのルートや口バを使って支援物資が届けられました。「支援物資をパラシュートでばらまけばいいものではありません」と勝間さんはきっぱり。「居心地のいい難民キャンプにするのではなく、これからは自分たちの村に帰れるように支援していかなければいけません」とも。改めてユニセフの支援に対する考え方にふれることができました。 <尾澤>

ユニセフこんなこと知りたい

国連子ども特別総会



「子どものための世界サミット」 (1990年)から見られた変化

- 1990年代には「教育」や「健康」の分野に重点が置かれていたが、今回はこれに加え「虐待・搾取・暴力」「HIV/エイズ」が新たに重点課題として位置づけられた。
- 思春期の子ども（およそ12～18歳まで）が、子どもとして明確に位置づけられた（ChildrenとともにAdolescentsという言葉がよく使われた）。
- 子ども参加がより重視され、政府代表団の構成も、NGO、子どもを含む多様なものとなった。

「国連子ども特別総会」について、詳しくはユニセフ協会ホームページをご覧ください
<http://www.unicef.or.jp>

2002年5月8～10日、ニューヨークで、60名の国家元首、110名の閣僚級を含む政府関係者3,000名、NGO関係者3,000名、計6,000名が参加して開催された「国連子ども特別総会」は、子どもたちのアピールから始まりました。

アピール「A World Fit for Us (私たちにふさわしい世界)」は、「私たちは世界の子どもです。…私たちはこれまで声を聞かれることのなかった子どもです。…私たちは子どもたちにふさわしい世界がほしいのです。子どもにふさわしい世界は、すべての人にふさわしい世界でもあります」と訴えかけました。10日の深夜0時に採択された「子どもにふさわしい世界」という最終文書では、健康分野で7つ、教育分野で6つ、虐待・搾取・暴力分野で4つ、HIV/エイズ分野で3つの目標が定められました。

国連子ども特別総会は、1990年に開催された、「子どものための世界サミット」の10年後のフォローアップとして、子どもたちのために達成できたこと、できなかったことについて詳しく検討し、世界の指導者たちに提示しました。2001年6月、国連のコフィ・アナン事務総長は1990年に設定された目標に向けて達成されたことと、できなかったことの詳細をまとめた報告書「We the Children」で、「多くを望みすぎたわけでも、技術的に到達できないことだったのでなく、十分な投資がなされなかったために実現できなかった」と述べています。

世界には、21億人、世界人口の36%にあたる子どもたちがいます。毎年1億3,200万人の子どもが生まれ、4人に1人が絶望的な貧困（1日1米ドルに満たない収入の家庭）の中でくらしています。12人に1人が5歳未満で亡くなっていますが、ほとんどは避けられる原因によるものです。また、今日生まれた100人の子どものうち…

- 40人は出生が届けられない
- 26人が何の病気の予防接種も受けられない
- 19人が安全な飲料水を手に入れることができない
- 30人が人生の最初の5年を栄養不良で苦しむ
- 17人がまったく学校に行けず、うち9人が女の子
- 1年生として入学した100人のうち、5年生になるのはわずか25人

「特別総会では、子どもたちへの投資が何より優先しなければならないことだということ。そしてその投資が貧困をなくし、HIV/エイズをなくし、紛争を避けるために唯一効果のある手段であることを、世界の指導者たちに理解してもらうのです」とユニセフのキャロル・ベラミー事務局長は語っています。

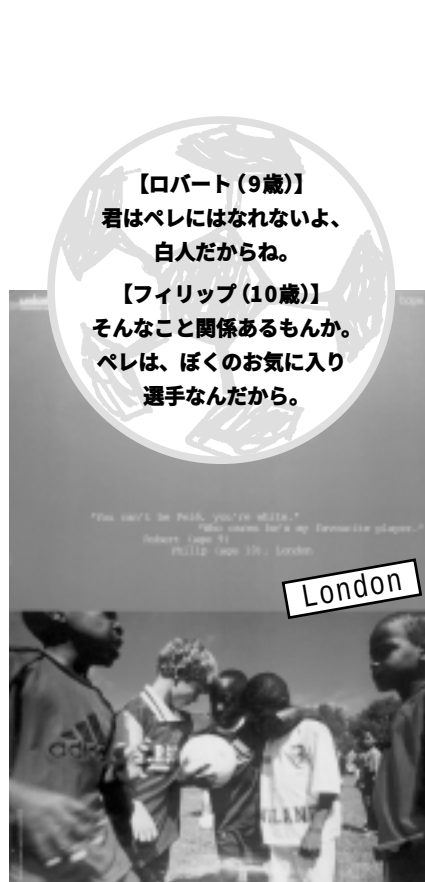
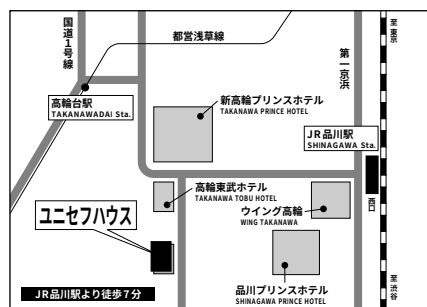
＜藤森＞

ワールドカップ開催記念 ユニセフ

ユニセフハウス1Fの企画展示コーナーで、ワールドカップ開催に関連して「世界の子どもたちがサッカーをする写真」と「子どもたちの声」を集めたポスター展を開催しています。6月19日は『ワールド・サッカー・デー』。この日は世界中の子どもたちが、安心して平和な環境でサッカーを楽しむことができる日にしようと、ユニセフと国際サッカー連盟（FIFA）が、各国に呼びかけています。東京に来る機会がありましたら、ぜひユニセフハウスにお立ち寄りください。サッカーを通して国際平和について考えてみませんか。

見学時間

月～金曜日および第2・第4土曜日(祝祭日を除く)
午前10時から午後6時まで
(ご入館は午後5時30分までをお願いします)



【ロバート(9歳)】
君はベレにはなれないよ、
白人だからね。

【フィリップ(10歳)】
そんなこと関係あるもんか。
ベレは、ぼくのお気に入り
選手なんだから。

【アデ(10歳)】
ぼくもうゴールにいるの
嫌だよ。
みんな、どんどん
ゴールポストを
動かしちゃうんだもん。

6月19日『ワールド・サッカー・デー』ってなあに？

「子どもたちが幸せにくらせるように」と願う気持ちを集めよう！ 昨年からユニセフが全世界で行っている「Say Yes for Children (セイ・イエス・フォー・チルドレン)」キャンペーン。2001年11月、世界のサッカー運営団体である国際サッカー連盟（FIFA）とユニセフは、子どものために地球的規模の連携を結ぶことを決め、2002 FIFAワールドカップ™は、「Say Yes for Children」をスローガンに行われることになりました。世界で最も観客が多いスポーツイベントといわれるサッカーのワールドカップが、人道的な活動のために捧げられることになったのです。

今大会ではどの試合でも子どもたちが大切な役割を果

たします。選手をフィールドにエスコートする子どもたちは、胸にユニセフのマークと「Say Yes for Children」のメッセージの入ったユニフォームを着ます。試合会場では、「Say Yes for Children」のメッセージを伝える映像が大画面で流されます。そして、大会期間中の6月19日は、世界中どんな状況でくらししている子どもたちもサッカーを楽しめる日、子どものための『ワールド・サッカー・デー』にしよう！と呼びかけています。

ロジャー・ムーア ユニセフ親善大使来日！！

ワールドカップ開催にあわせて、ユニセフ親善大使のロジャー・ムーアが来日します。6月6日(木)～7日(金)には神戸市を訪問し、市内の小学校、阪神・淡路大震災メモリアル訪問、アフガニスタンの子どもたちにサッカーボールを届ける活動を進めてきた女子サッカーチーム神戸エンジェルとの交流などを予定しています。今年3月に発足した日本ユニセフ協会兵庫県支部では、ワールドカップ開催と関連し、神戸市や兵庫県サッカー協会と協力しながらアフガニスタンの教育再開「バック・トゥ・スクール」キャンペーンを支援する募金の呼びかけを行っています。ロジャー・ムーア親善大使は、神戸市訪問の際、日頃ユニセフの活動を支えている県支部のボランティアとも交流します。

●6月19日 各開催地でのイベント

会 場	イベント内容
東京・国立競技場 (中央イベント会場)	元イングランド代表のボビー・チャールトンさん、日本代表OB選手らによるサッカー教室
北海道・札幌ドーム	Jリーガーらのサッカー教室
宮 城・県庁	ユニセフ募金贈呈式
茨 城・水戸ツインフィールド	Jリーガーらのサッカー教室
埼 玉・さいたま市駒場運動公園	Jリーガーらのサッカー教室
新 潟・新潟市鳥屋野球技場	Jリーガーらのサッカー教室
静 岡・藤枝市民グラウンド	日本代表OBチームと少年チームの対戦等
大 阪・会場未定	Jリーガーらと小学生のつどい
兵 庫・神戸ウイングスタジアム	アフガン難民にボールを届ける運動の紹介等

セフハウスでポスター展 (～6/30)

【サイモン(6歳)】
それぞれのチームに、
1人ずつ審判がいたら
公平になるのになあ…。

London



【ルイ(7歳)】
ママは、夜7時過ぎには
危ないからサッカーしちゃ
ダメだっていうんだ。
ぼくは、ずっとサッカー
していたいんだよ。
特にぼくらが負けて
いるときにはね。

Rio



【チコ(8歳)】
あいつは、
ぼくらより大きいから
ファウルしても
ごまかして逃げられると
思っているんだ。
ぼくらには、
審判が必要だよ

Rio



「ハロー・ディア・エネミー！」展

ユニセフハウスにはもうお出かけになりましたか？ わかりやすい興味ある展示にあふれ、見ごたえ十分です。青いジャンパー姿のボランティアさんをお願いすると、1階2階と詳しく説明して下さいます。最近は修学旅行で立ち寄る学生さんも多いとのことで、私が行った日も、何組かのグループが熱心に説明を聞いていました。私もお願いしました。とても勉強になりました。

1階の大きなスクリーンの向かいにある企画展示コーナーもどうぞお見逃しなく！ このコーナーの展示は、数か月ごとに入れ替わります。4月1日から5月30日までは、国際絵本展「ハロー・ディア・エネミー！」展を開催していました。これはドイツの絵本『Guten Tag, lieber Feind!』(しいて訳せば「こんにちはは、敵さん」)をはじめとする、いろいろな国の平和を考える絵本展です。(社)日本国際児童図書評議会(JBBY)と(財)日本ユニセフ協会との共催で、全国を巡回し絵本展を開催しています。

写真：『たったひとりの戦い(フランス/アナイス・ヴォージュラード)』『はなのすきなうし(アメリカ/ロバート・ローソン)』『あいたかったよ(フランス/エルズビエタ)』『かえるくとたびのねずみ(オランダ/マックス・ベルジュイス)』『なぜ あらそうの？(スイス/ニコライ・ポポフ)』『広島原爆(日本/那須正幹)』



「ハロー・ディア・エネミー！」の絵本展セットは、貸し出しを受け付けています。

19か国から85冊の絵本を取り揃えて、日本語のあらすじをつけています。

【貸出料2万円+往復送料】

□お申し込み 日本ユニセフ協会 協力事業部 (TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032)

探 険
世界のくらし
Laos



浜崎今日子さん

青年海外協力隊員（職種／獣医師）として、1994年12月から1997年3月までラオスのチャンパサック県農林局に派遣、その間、ルアンプラバン県、サバナケット県など7県訪れました。



不思議の国・ラオス

アジアの地図を開くと、5つの国に囲まれたインドシナ半島北部の小国・ラオスを見つけることができます。その形は小犬のようで、60あまりの民族からなる500万人が日本の本州ほどの国土に暮らしています。「不思議の国」といわれる由縁のほんの一部をご紹介します。

ホームステイ先の「我が家」は南部の町・パクセーにあり、ここで私は十数人からなるラオ族の大家族の中でくらししました。ラオ族はどちらかといえば女系家族で、ここも「スワン母さんの家」と呼ばれています。年に一度「女性の日」があり、特に母親の労をねぎらう日になっています。母親は幼い子どもを腰にのせ片手で家事をこなしますが、子どもも心得ていて親が手を離してもしっかりとつかまっています。子ども同士、上の子が下の子の面倒をよくみます。親戚同士でも、裕福な者がそうでない者をみるのが当たり前で、「我が家」にも遠縁にあたる3

姉妹が親と離れて暮らしていました。上の娘の結婚式も「我が家」で行い、私も一緒にお祝いしました。

手首に巻くバーシー

とても信仰心のあついで、仏教は日々の暮らしの中に溶け込んでいます。どんな小さな村にも寺があり、とても大切にされています。

ラオスには人生の節目（誕生、葬儀、結婚、病気回復、送別、歓迎、新年など）に人の手首に糸を巻くバーシーという習慣があります。糸を巻きながら、相手のために祈ります。その糸もまた、あらかじめ寺院へ持っていき仏に供したもので、人々の温かさが手首に残ります。

ボーペンニャン

よく耳にした言葉に「ボーペンニャン」があります。「どうかなるさ」「どういたしまして」「心配ないよ」といった様々な意味があります。仕事が間に合わなくても、洪水にあっても「ボーペンニャン」なのです。おおらかな国民性がうかがえ、都合のいい言葉のようですが運命を受け入れるような言葉にも聞こえました。争い事がめったに起きないのも「ボーペンニャン」なのかもしれません。

味付けにはナンプラー

市場には主食の米、メコン河の幸、家畜の肉や多種の野菜・果物に混じって、野ネズミ、大トカゲ、カエル、ヘビ、昆虫類が並びます。バナナの葉の上に一山いくりで売られている新鮮な食材（蟻など）は、常にかき集めていないと逃げ出します。味付けに欠かせないナンプラー

2002年度ユニセフスタディツアー（ラオス）のご案内

日本ユニセフ協会では、毎年生協の皆様を対象にユニセフの現地の活動を視察するスタディツアーを実施しています。

- 視 察 地 ラオス
- 日 程 2003年2月中旬 7泊8日
- 視察内容 生協のラオス指定募金により実施されている女性支援事業の他、保健、栄養、教育事業など、ユニセフの活動を視察予定。
- 参加費用 生協負担額1人あたり約25万円
- 申し込み 生協からの派遣申し込みを受け付けています。申込書類は全国組合員活動情報4月号にあります。
- 問い合わせ 日本ユニセフ協会 協力事業部
生協担当 藤田 TEL 03-5789-2012

は家ごとに大きな壺で作り、スパイスやハーブの種類も多く、食べ物に地位や貧富の差はあまりないようです。1つの器に盛ったおかずは小さく丸めたもち米につけて食べます。仏領時代の名残のフランスパンも地元の食材をはさんだサンドイッチとして庶民の味となり、炭火を使ったホットサンドの屋台は終日賑わっています。

母なるメコン河

人々に恵みをもたらしながらゆったりと流れるメコンも雨期の終わりには牙をむき、町や村は水没し、結果的には病気の蔓延や農作物の被害などを起こします。しかし、洪水への人々の対応はたくましく、小舟を浮かせ即席水上市場も登場します。多少の不便もなんのその、耐え抜くというより「ボーペンニャン」精神で乗り切ります。4月と正月は水かけ祭り、9月は舟祭りと、メコンは祭の舞台になります。人々にとってメコンはどんな顔を持っても「母なる河」なのです。



青いパイアサラダ タム・マークフン

◆ 材 料 (4人分) ◆

- 青いパイア (キュウリやニンジンで代用可) 1個
- プチトマト 10個
- インゲン 50グラム
- ビーナッツ 大さじ2
- 唐辛子 適量
- にんにく 1かけ
- 干しエビ (水でもどしておく) 大さじ2
- 合わせ調味料 ナンプラー 大さじ2
- ライムまたはレモン汁 大さじ2
- 砂糖 小さじ1/2

- ① パイアは皮をむき、千切りにする。
- ② プチトマトは四つ切りにする。
- ③ いんげんは3センチに切る。
- ④ すり鉢に唐辛子、にんにく、干しエビ、いんげんの順に入れ、叩きつぶす。
- ⑤ パイアを入れ、軽く叩く、
- ⑥ 合わせ調味料とプチトマトを加え、軽く叩いて混ぜ合わせ、器に盛る。

※おいしさの秘密は叩き具合にあります。いろいろ研究してみてください。
※生のままのいんげんが苦手な人は、軽くゆがいてください。



もうお読みになりましたか？

これが国連です 発行/国際連合広報センター

ニューヨークにある国連本部は、毎年100万人を超える観光客が訪れる名所だそうです。国連のガイドツアーでは、各国の代表が一堂に会し、地域的な関心事項について話し合う会議場を見学したり、加盟国から寄贈された興味深い品々や美術作品などの展示物を見たりすることができます。

この冊子『これが国連です』では、そうした会議場や美術作品などの写真とともに、国連の考え方や活動、6つの主要機関とその役割が紹介されています。冊子を繰ると、まるでガイドツアーに参加しているようです。ソ連から国連に寄贈された彫刻「剣を鋤に打ち直そう」、スウェーデンの芸術家の手による銃身が縛られたピストルのレプリカ「非暴力」など、掲載されている作品の写真一枚一枚から平和を願う人たちの気持ちが痛いほど伝わってきます。いまだ紛争の絶えない国があります。気候変動、大気・水質汚染などの環境問題も、地球規模で取り組んでいかなければなりません。そうした中で、世界のあらゆる国や地域にとって話し合いの場となり、国際



緊張を緩和させ、紛争の防止を図り、また、環境の保全のために地球的計画で動いている国連の存在は、これからますます重要になっていくでしょう。そういう存在であり続けてほしいと、感じました。新聞やニュースで見聞きし、馴染みのある「国連」という言葉。詳しいことはよくわからないという方も多いのでは？ 私もその1人でした。あるいは、もっと知りたいという方も、ぜひこの冊子を読んでみてください。 <尾澤>

□お申し込み 日本ユニセフ協会 TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032

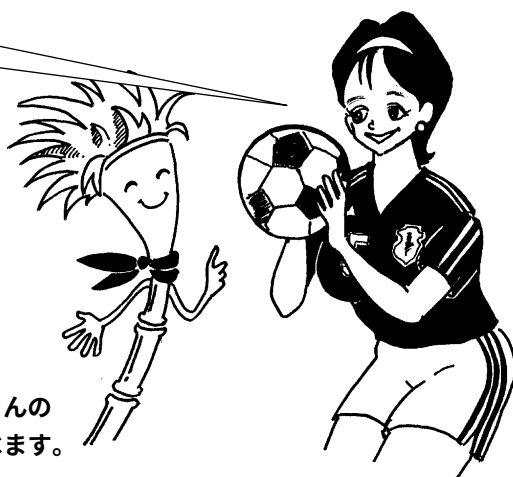
KID'S ROOM



ユニセフでは、支援する国や地域の子どもたちのために、サッカーボールを届けています。

よし！ぼくたちも、ボールを持って応援に行こう。

サッカーボールでたくさんの子どもたちが仲良く遊べます。



「平和のためにキックオフ!!」の巻

センちゃん和プウちゃん、ボムに連れられて、南米のある国にやってきました。街角で出会った若者たちは、なんだか様子がおかしいようです。生活の苦しさからのがれるために、薬物に手を出しているのです。



きみたち
このボールで遊ぼ…

楽しく
サッカー…

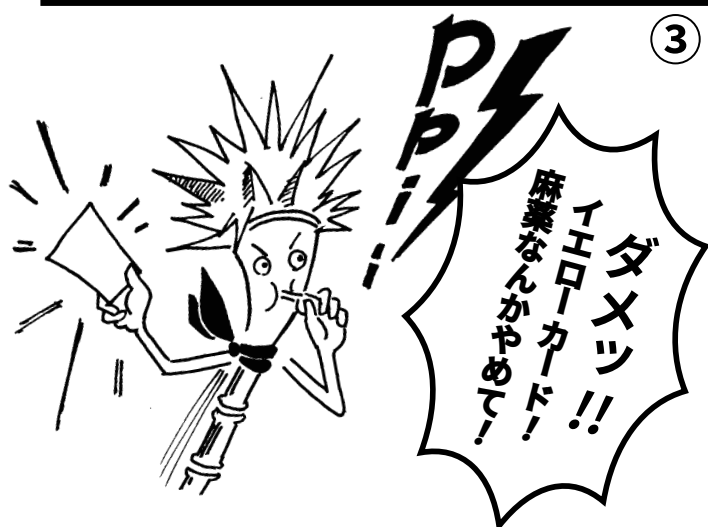
①



サッカーより麻薬の方が
気持ちいいぜ

いやなことも
忘れられる…

②



③



きみたちの国づくりを
応援するよ!

④

世界中の子どもたちが楽しくサッカー
ができる日がくるといいですね。

紛争後の国、内戦の絶えない地域、貧困が続く国などでは、子どもたちは厳しい状況に置かれています。小学校を修了し、これから社会に出ていくための準備期間にある思春期の若者は、社会の支援がなく、地域のくらしに参加できないと、薬物の不正取引に利用され、性的に搾取され、HIV/エイズの危険にさらされ、武力紛争で兵士に使われ、過酷な労働を強制され、学校にも行けず、社会の片隅に押しやられてしまいます。ユニセフは、そうした子どもたちに、子どもが主体となって意見を表し参加する機会を広げるための支援を行っています。

センちゃんとうちゃんが出会った子どもたちには、どんな権利が関係あるのでしょうか…

子どもの権利条約

第12条「意見を表す権利」

子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利を持っています。その意見は、子どもの発達に応じて、十分考慮されなければなりません。

第13条「表現の自由」

子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利を持っています。ただし、他の人に迷惑をかけてはなりません。

第15条「結社・集会の自由」

子どもは、他の人々と自由に集まって会をつくったり、参加したりすることができます。ただし、安全を守り、決まりに反しないなど、他の人に迷惑をかけてはなりません。

第33条「麻薬・覚せい剤などからの保護」

国は、子どもが麻薬や覚せい剤などを売ったり買ったり、使ったりすることに巻き込まれないように守らなければなりません。

※日本ユニセフ協会 訳

ユニセフでは…

- 子ども議会、子ども・若者会議、子ども選挙などを開き、自分たちの望む社会と国づくりのための意見を交換する場を設定し、国の政府に働きかけます。
- 若者向けのラジオ番組や雑誌などを若者が作り、自分たちに関係の深いテーマを広く同世代の子どもに訴える役割を担ってもらう機会をつくります。
- 青少年センターなど地域の子どもの利用できる施設に、子どもが楽しんで参加できるプログラムづくりを支援します。子どもは、絵画、演劇、音楽、語学、コンピュータ、スポーツなど好きなプログラムに参加し、地域の子どもたち同士交流を深めることができます。
- HIV/エイズについてのテキストや教育キットを作成し、自分たちの問題として、若者が話し合える機会をつくります。

子どもには意見を表す権利があります

「子どもの平和運動」 コロンビア

ファン・エリアス・ウリベ少年は、14歳のときに父親をなくしました。コロンビア東部のアグアシカセサル町で歯科医をしていた彼の父は、町の貧しい地域でしばしば公衆衛生キャンペーンの先頭に立ち、活躍していました。ウリベ氏は1996年のある朝、自分の診療所で、突如侵入してきた3人の男に銃殺されました。アグアシカセサルでは、ゲリラや準軍事組織やコロンビア軍の砲火にさらされ、日常的に住民が殺害される事件が起っていました。コロンビアの内戦は半世紀も前に始まり、1992～1997年の間、1年に4,000～6,000人も政治的殺人がありました。

コロンビアの内戦に歯止めをかけたのは、ファン・エリアス・ウリベ君のように内戦の犠牲者となった子どもたちでした。戦火で荒廃したアパルタード町の高校で生徒会長をしていた17歳の少女、ファルリス・カリエさんは、「平和を実現するためには貧困を解決することが重要です。子どもにはそれができませんが、私たちにでもできることがあることに気づきました」と語り、貧しいコミュニティの子どものために「平和カーニバル」を開きました。子どもが楽しむ方法を見出すこと自体が、平和づくりの方法になると考えたからです。

1996年、ユニセフは、アパルタードの子どもや若者のためのワークショップを開きました。暴力が子どもに与える影響や、子どもが平和のためにできる活動について意見を出し、話し合える場所をつくりました。このワークショップには、ファン・エリアス・ウリベ君をはじめ、コロンビア中の子どもと若者が参加しました。

このワークショップがきっかけとなって、「子どもの平和運動」が生まれました。この運動は、コロンビアの若者を調停者として、国が子どもの声に耳を傾けることを目的として、ユニセフが政府、宗教団体、子ども団体など多くの団体と協力して行われました。約300万人の子どもと若者が、「平和と権利のための子どもの要求」という特別の子ども投票に参加しました。投票の結果、「生存、平和、家族、虐待からの保護」の権利が選ばれました。投票の数か月後、ファン・エリアス・ウリベ君とファルリス・カリエさんが議長となり、「子どもの平和運動」を支援した団体の代表者会議が開かれました。コロンビア中から集まった7～16歳の子どもが参加し、若者が世界の平和プロセスに参加することについて意見交換がされました。

「子どもの平和運動」は、コロンビアの大人を動かししました。子ども投票の1年後の1997年10月26日、1,000万人以上の成人が投票し、戦争や虐殺を終わらせ、18歳未満の子どもを戦争に使わないことを望みました。さらに、1998年8月の大統領選挙では平和をアピールしたアンドレス・パストラナが大統領に就任しました。

バック・トゥ・スクール アフガニスタンの子どもたちを学校へ戻そう

日本ユニセフ協会では、「バック・トゥ・スクール〜アフガニスタンの子どもたちを学校へ戻そう」運動を支援しています。すでに日本からは支援金として、約14億1千万円が送られました。そのうちの7億8千万円が、日本の皆様から日本ユニセフ協会に寄せられた民間募金によるものでした。この寄付金は、子どもたちのための教材セット、教育施設設置などの費用に充てられ、この学校再開に向けた全力の活動の結果、178万人もの子どもたちが安全な環境の中で学校に戻ることができたと報告されています。ご協力ありがとうございました。さらに、現在ユニセフでは、今後国外からアフガニスタンに戻ってくる100万人以上の難民の子どもたちがこのキャンペーンに参加するための準備を引き続き行っています。

また、3月25日にアフガニスタン北部を襲った地震による多くの被害者のための緊急援助を追って開始しました。アフガニスタンへの緊急募金にご協力をお願いします。

募金送付先

郵便振替 00110-5-79500
加入者名義：財団法人日本ユニセフ協会
※通信欄に「アフガン難民」とご記入ください
送金手数料は免除されます
インターネットからも募金を受け付けています
<http://www.unicef.or.jp>

ユニセフリーダー研修・交流会のお知らせ

東会場
□日時 2002年8月19日(月)午後〜20日(火)お昼頃
□会場 ユニセフハウス(港区高輪4-6-12)
TEL 03-5789-2012

西会場
□日時 2002年8月22日(木)午後〜23日(金)お昼頃
□会場 大阪厚生年金会館(大阪市西区新町1-14-15)
TEL 06-6532-3301

- 参加対象 全国のユニセフ支援に積極的に関わり、ユニセフリーダーとなっていただける生協の組合員、理事、職員(各会場とも40名を予定)
- 参加費 1人 5,000円(税込)
研修参加費、宿泊費、食費(1日目夕食、2日目朝食)含みます。会場までの往復交通費はご負担ください。
- 申し込み 6月の全国組合員活動情報でご案内します。
- プログラム内容(予定)
 - ・ユニセフソボ事務所の箱山富美子さんによる現地活動報告
 - ・ユニセフの実践内容を理解するワークショップ
 - ・各地での取り組みを推進するためのワークショップ
 - ・今後の活動の進め方を研究するワークショップ
 - ・各生協の取り組み交流

●この記事に関するお問い合わせは...

日本生活協同組合連合会 組合員活動部
TEL 03-5778-8124/FAX 03-5778-8125
日本ユニセフ協会 協力事業部 生協担当
TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032

新資料紹介

2001ユニセフ年次報告

毎年ユニセフが発行している年次報告。ユニセフの活動成果と課題を世界各国の事例を紹介しながらまとめている。(1部無料、2冊目より1部300円)

ポスター「みんなみんな夢みる子」



子どもの笑顔が印象的なポスター。街頭募金やイベント時にご活用ください。
(10枚まで無料)

統計で見る子どもの10年(1990〜2000)



5歳未満死亡率、子どもの栄養不良、安全な飲み水、基礎教育、呼吸器感染症、妊産婦死亡率、ビタミンA欠乏症、ヨード欠乏症、HIV/エイズなどについて、統計数値を示しながら「90年代の前進」を測り、残された課題をあげています。
(1部無料、2冊目より1部130円)

ポスターセット「ひとりひとりが大きな力」



10枚セットで、ユニセフの活動を紹介しています。イベント時の展示用、学習用にお使いください。
(2セットまで無料)

□お申し込み先 日本ユニセフ協会 協力事業部 FAX 03-5789-2032

カレンダー募金のお礼

昨年からの取り組みで、(株)伊東屋さんで、毎年1月中旬頃までに店頭で販売しきれずに残ってしまったカレンダーを日本ユニセフ協会にご寄付いただき、地域の生協でチャリティ販売していただく「カレンダー募金」を今年も行いました。今年は(株)NTTドコモさんからカレンダーや手帳などをご寄付いただき、約7,300部のカレンダーが集まりました。それらを全国18生協に発送し、各地でカレンダー募金に取り組んでいただきました。皆様の温かいご支援により、1,016,690円の募金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

『ぼむぼむ通信』編集ボランティア募集

■お問い合わせ 日本ユニセフ協会 協力事業部 藤田
TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032

ユニセフ＊コープ ネットワーク

ぼむぼむ通信

No.18 [夏号] 2002年6月1日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ
(生協組合員ボランティア)
スタッフ・編集/岩橋・尾澤・浜崎・福本・藤森・松本・山本・藤田
イラスト/蛸沢
発行 財団法人日本ユニセフ協会 協力事業部
〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12
TEL 03-5789-2012
FAX 03-5789-2032
ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

編集後記

★今年度の「ユニセフ・スタディツアー」は、「ラオス」が計画されています。そこで「探険・世界のくらし」も「ラオス」を紹介してみました。フランス人の名言として、「稲を植えるのがベトナム人、稲の育つ音を見ているのがカンボジア人、稲の育つ音を聞いているのがラオス人」と、それぞれの国民性が農作業に例えて語り継がれています。日本人も含まれていた何と表現されたでしょうね。「指定募金」に

取り組む生協の皆さん、これからも応援よろしくお願いします。(浜崎)
★みずみずしい新緑の芽吹きとともに、街に、キャンパスに、新社会人やフレッシュマンが輝いています。何もかもがフレッシュだった自分自身の新人時代もオーバーラップするようです。彼らの若々しい感性や新しい視点を刺激に、ともに手をたずさえて考え、行動していくことを大切にしていきたいと思います。(藤森)